

2024年1月31日 全7頁

## Indicators Update

## 2023年12月鉱工業生産

ダイハツ工業生産停止で軽自動車は下振れも生産指数への影響は軽微

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬  
研究員 石川 清香

## [要約]

- 2023年12月の生産指数は前月比+1.8%と2カ月ぶりに上昇した。汎用・業務用機械工業や化学工業（除く無機・有機化学工業・医薬品）のほか、半導体製造装置やモス型IC（メモリ）といった半導体関連品目も好調であった。主力の自動車工業は小幅に上昇した。ダイハツ工業の工場稼働停止の影響で軽乗用車が下振れしたものの、普通乗用車や普通トラックの堅調さがこれを補った。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、振れを伴いながらも均して見れば横ばいで推移するとみている。シリコンサイクル（世界半導体市場の循環）の持ち直しが進む中で、関連業種における増産が生産指数を押し上げるだろう。他方、米欧を中心に外需が減速することで国内の生産活動が下振れする可能性には引き続き注意が必要だ。なお、ダイハツ工業の工場稼働停止による影響は限定的にとどまるとみている。
- 2024年2月7日に公表予定の2023年12月分の景気動向指数は先行CIが前月差+1.1ptの108.7、一致CIが同+1.5ptの116.1と予想する。予測値に基づく、12月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年								2024年	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
鉱工業生産	▲2.2	+2.4	▲1.8	▲0.7	+0.5	+1.3	▲0.9	+1.8		
コンセンサス								+2.5		
DIR予想								+2.5		
生産予測調査									▲6.2	+2.2
補正值(最頻値)									▲10.5	
出荷	▲1.1	+1.6	▲1.8	▲0.3	+0.6	+0.4	▲1.2	+2.5		
在庫	+1.8	+0.2	+0.6	▲1.3	▲1.3	+0.6	+0.0	▲1.2		
在庫率	+1.5	▲0.8	+1.0	▲1.0	▲1.7	▲0.3	+1.8	▲2.9		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

## 【生産】汎用・業務用機械工業を中心に幅広い業種が上昇

2023年12月の生産指数は前月比+1.8%と2カ月ぶりに上昇したが、上昇幅はコンセンサス(同+2.5%、Bloomberg調査)を下回った。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種が前月から上昇した。汎用・業務用機械工業(前月比+9.3%)ではコンベヤ(同+112.2%)が全体を押し上げた。11月(同▲67.8%)の大幅減産の反動が表れたとみられる。また、化学工業(除. 無機・有機化学工業・医薬品)(同+7.9%)では乳液・化粧品類(同+22.4%)など、生産用機械工業(同+4.3%)では半導体製造装置(同+6.2%)などが押し上げた。

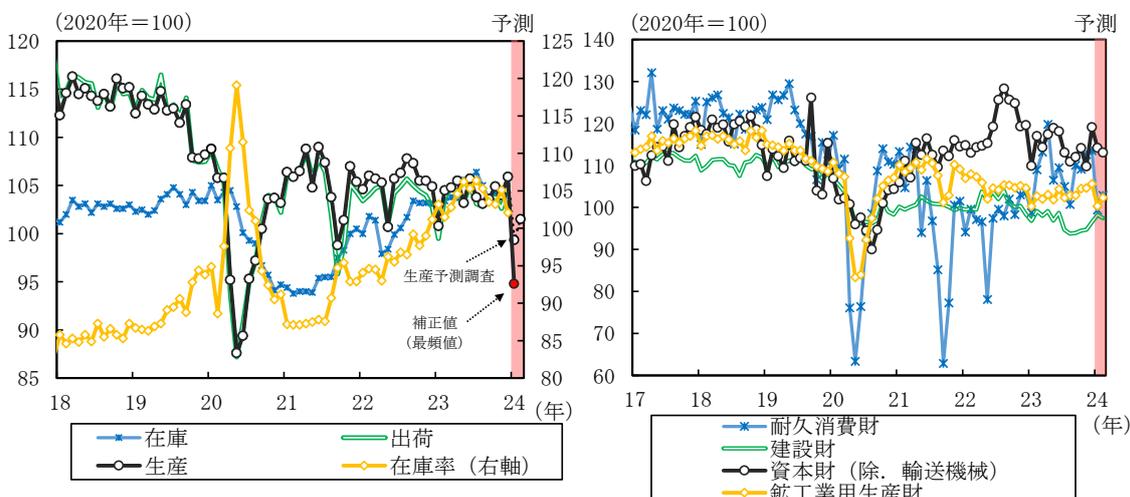
また、生産用機械工業(前月比+4.3%)では半導体製造装置(同+6.2%)などが増加し、電子部品・デバイス工業(同+2.0%)ではモス型IC(メモリ)(同+34.9%)が4カ月連続で大幅に増加した。両業種ではシリコンサイクル(世界半導体市場に見られる循環)の改善傾向が鮮明化する中で需要が回復しているとみられる。その他の業種では、自動車工業(同+1.2%)が上昇した。ダイハツ工業の工場稼働停止の影響で軽乗用車(同▲15.1%)が下振れしたものの、普通乗用車や普通トラックの堅調さがこれを補った。他方、その他工業(同▲0.6%)では乗用車用タイヤ(同▲3.7%)などが減産となったほか、窯業・土石製品工業(同▲0.2%)も低下した。

財別では、とりわけ資本財(除. 輸送機械)(前月比+8.5%)の上昇幅が大きく、水準で見れば2022年末以来の高さとなった。その他の財では、生産財(同+0.9%)、非耐久消費財(同+1.0%)、耐久消費財(同+0.8%)、建設財(同+1.9%)のいずれも小幅に上昇した。

## 【出荷・在庫】設備投資動向を示す資本財出荷は横ばい圏で推移

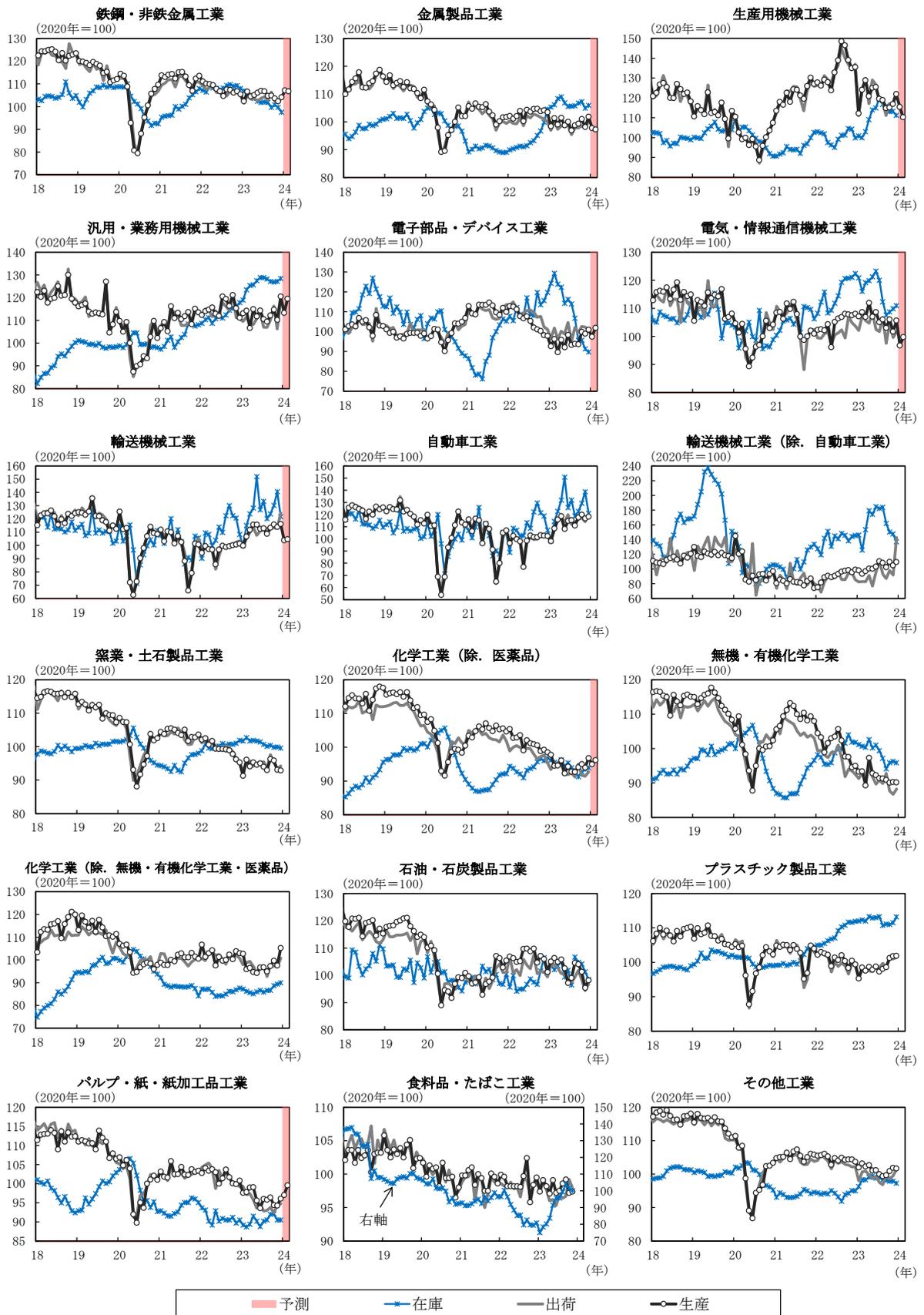
12月の出荷指数は前月比+2.5%と2カ月ぶりに上昇した。業種別では、輸送機械工業(除. 自動車工業)など15業種中14業種が上昇した。財別では、設備投資動向を示す資本財(除. 輸送機械)のほか、生産財や建設財、耐久消費財が上昇した。他方、非耐久消費財は低下した。在庫指数は同▲1.2%、在庫率指数は同▲2.9%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫(左)と財別の生産(右)



(注) 生産指数の予測値(赤色)は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業(除.医薬品)の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 【先行き】シリコンサイクルの回復局面入りなどが生産指数を下支え

先行きの生産指数は、振れを伴いながらも均して見れば横ばいで推移するとみている。中国経済の回復が見込まれるほか、シリコンサイクルが2024年中に回復局面入りすることで生産指数が押し上げられるだろう。この点、電子部品・デバイス工業における出荷・在庫バランスは明確な改善基調を辿っており（p. 6）、日本が強みを持つ半導体素材や同製造装置といった関連産業での需要拡大も期待される。他方で米欧を中心に外需が下振れすることで、日本国内の生産活動が押し下げられる可能性には引き続き注意が必要だ。とりわけ欧州では、2023年10-12月期実質GDP成長率がユーロ圏で前期比+0.0%、域内最大の経済規模を持つドイツで同▲0.3%とマイナス成長に転じるなど、停滞感が強まっている。

なお、ダイハツ工業の工場稼働停止の影響で今後も生産指数の水準は下押しされるとみている。もっとも、軽自動車におけるダイハツ工業の国内シェアと生産指数における軽自動車のウエイトから機械的に計算すると、生産指数への直接的な影響は▲0.2%程度にとどまる見込みだ。他の軽自動車メーカーで代替需要が発生する可能性もあることから、総じてみれば生産指数への影響は限定的となろう。他方、豊田自動織機におけるディーゼルエンジンの認証取得問題の影響についても注視する必要がある。

製造工業生産予測調査によると、2024年1月は前月比▲6.2%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同▲10.5%）と見込まれている。業種別では11業種中8業種が低下する見込みだ。輸送機械工業（同▲10.6%）や電気・情報通信機械工業（同▲8.4%）、生産用機械工業（同▲5.3%）などの主力産業が全体を押し下げるとみられる。なお、上述のようにダイハツ工業の工場稼働停止の影響は限定的とみられるものの、周辺産業への影響には注意が必要だ。

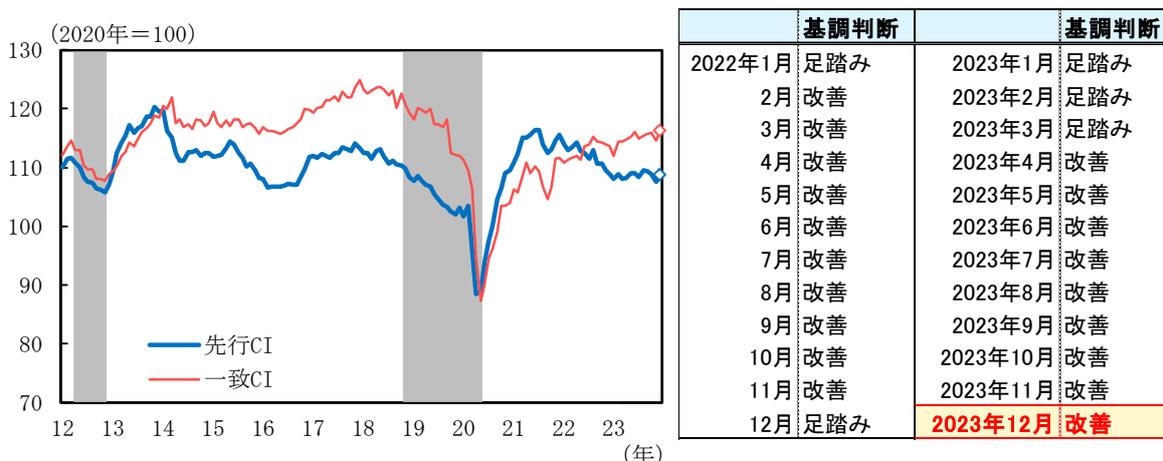
2024年2月は前月比+2.2%と、1月の大幅低下に対して小幅な回復にとどまる見込みだ。業種別では、11業種中8業種が上昇するとみられている。汎用・業務用機械工業（同+5.5%）や電子部品・デバイス工業（同+4.6%）、電気・情報通信機械工業（同+3.1%）などで増産が計画されている。他方、輸送機械工業（同+0.8%）は1月に続いて低水準で推移する見込みだ。

## 【12月景気動向指数】先行CI、一致CIともに上昇の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年2月7日に公表予定の2023年12月分の景気動向指数は先行CIが前月差+1.1ptの108.7、一致CIが同+1.5ptの116.1と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数、消費者態度指数などが改善した。また一致CIでは構成指標のうち、輸出数量指数、投資財出荷指数（除輸送機械）、生産指数（鉱工業）などが改善した。この予測値に基づくと、12月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

先行きの経済活動は緩やかな回復基調を辿るとみている。2024年前半にかけて国内向け自動車の挽回生産が発現するほか、中国人訪日客の本格回復や個人消費の持ち直しを見込んでいる。政府による総合経済対策や、国内で蓄積した高水準の家計貯蓄も景気の下支え要因となろう。また24年春闘で高水準の賃上げが実現すれば、個人消費の一層の増加が促されるとみている。なお、「令和6年能登半島地震」による被災地域などの経済活動への影響は大きいとみられる一方、日本の実質GDP成長率に対する影響は限定的と見込んでいる<sup>1</sup>。

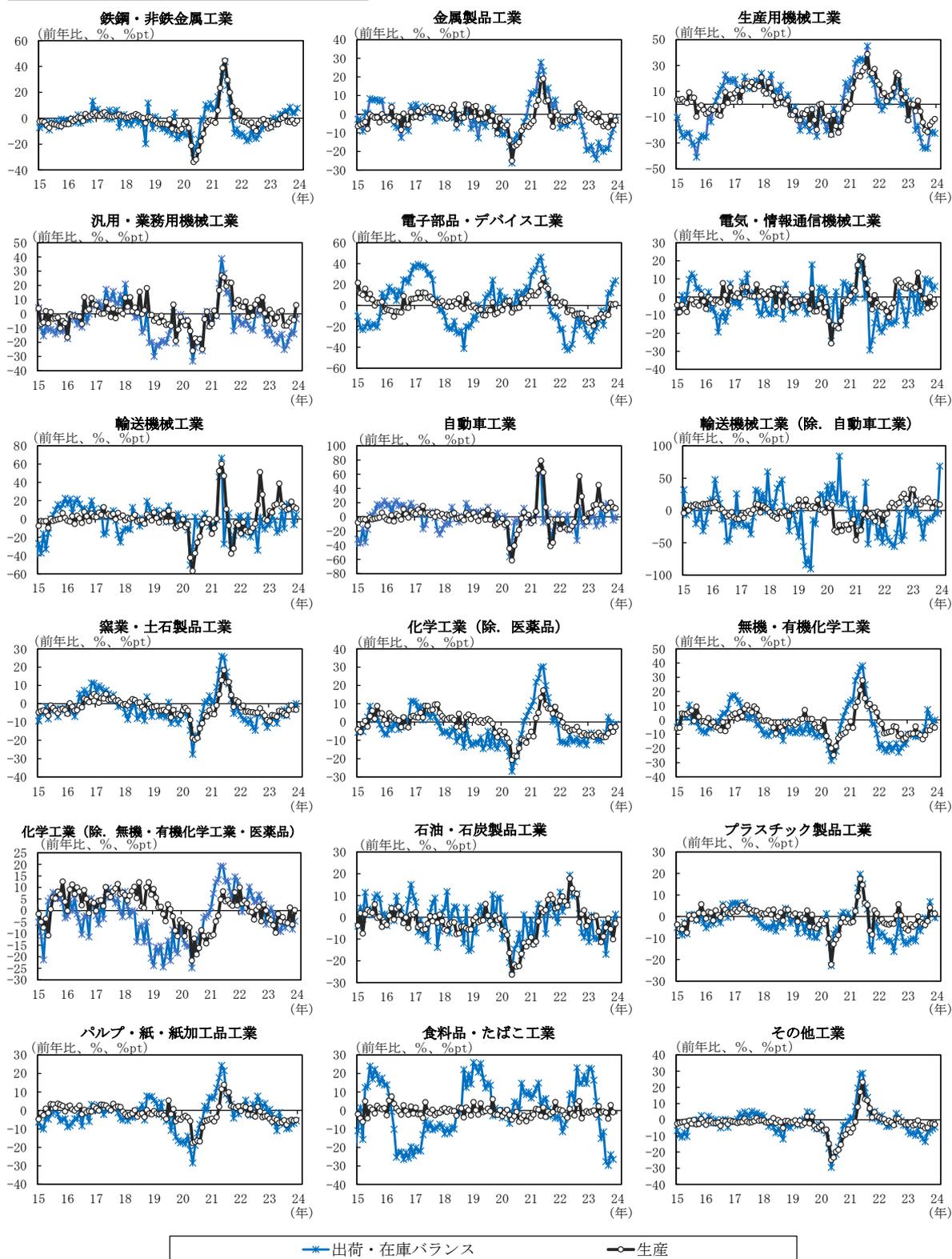
図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。  
右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。同年12月は大和総研予想。  
（出所）内閣府統計より大和総研作成

<sup>1</sup> 詳細は神田慶司・久後翔太郎・末吉孝行・田村統久「[日本経済見通し：2024年1月](#)」（2024年1月23日、大和総研レポート）を参照。

## 業種別 出荷・在庫バランスと生産



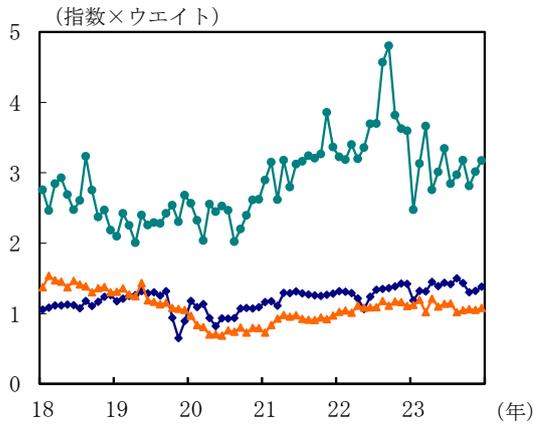
(注1) 出荷・在庫バランス=出荷前年比-在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

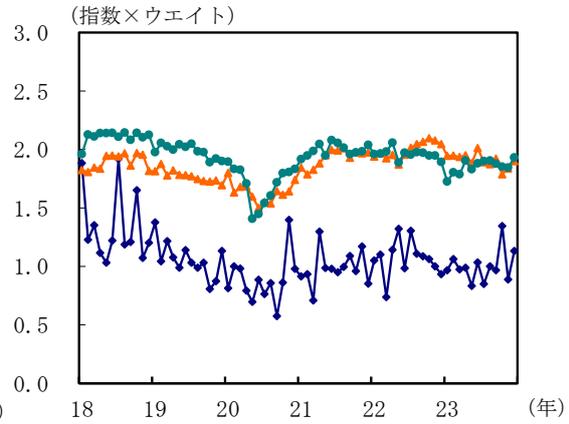
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



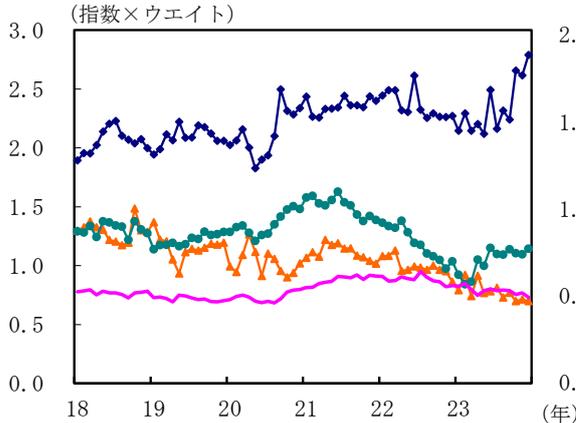
- 建設・鉱山機械
- 金属加工機械
- 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



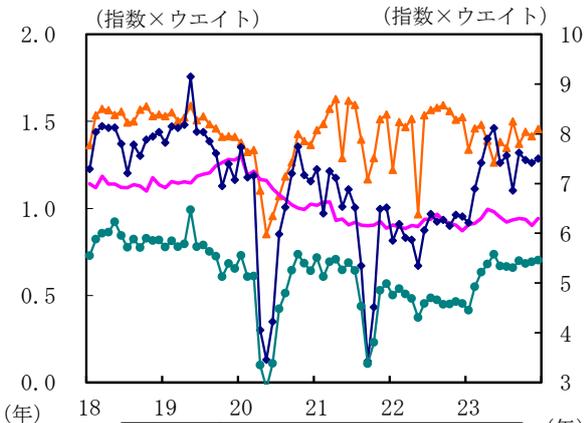
- ボイラ・原動機
- ポンプ・圧縮機器
- 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



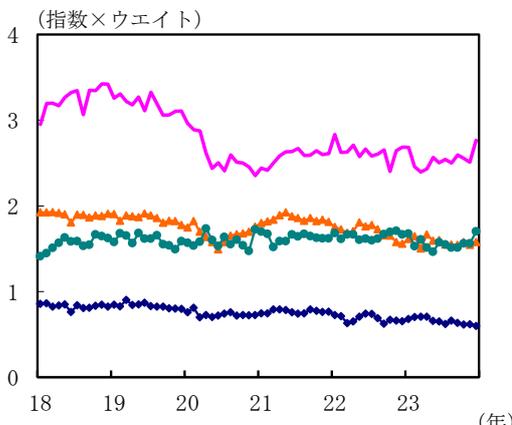
- 集積回路 (IC)
- 電子デバイス
- 電子部品
- 電子回路

輸送機械



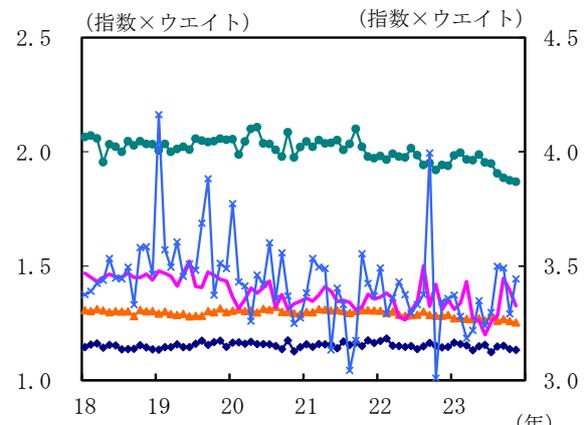
- トラック
- 船舶・同機関
- 乗用車 (右軸)
- 車体・自動車部品 (右軸)

化学



- 石油化学系基礎製品
- プラスチック
- 洗剤・界面活性剤
- 化粧品

食品・たばこ工業



- 肉加工品
- 乳製品
- パン・菓子
- 清涼飲料
- 酒類 (右軸)

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。  
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成